



Organization for Clinical Rehabilitation with Advanced Science and Effective Education  
発行：NPO 法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED / 年 4 回発行 / 第 6 号 (2007 年 9 月 30 日発行)  
〒 560-0054 大阪府豊中市桜の町 3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL 06-6857-9640 URL : www.craseed.org



## 第 2 回 CRASEED フォーラム報告

去る平成 19 年 7 月 1 日、第 2 回 CRASEED フォーラムが「住民参加の介護予防」と題して開催されました。講師は茨城県立健康プラザの大田仁史先生でした。大田先生といえば「シルバーリハビリ体操」「いっばつ体操」など介護予防の体操でテレビに出演されているため一般の方にもなじみが深い先生です。体操のみならず在宅介護、地域リハビリテーション、脳卒中リハビリテーション、そして整形外科と多岐にわたる著書もあり非常に興味深い講演が聴けるものと期待されました。

講演はまず高齢者のリハビリテーションについて第一次ベビーブームで生まれた人が小学生になった時の集合写真を見せていただき、特に今後 40～45 年の対策が重要であることを示されました。実際に茨城県ではヘルパー 3 級取得県民運動に取り組まれているそうです。中学生と介護される世代(最高は 90 歳)にヘルパー 3 級取得のための勉強をさせることで、介護予防についての知識や実際のケアを知ることができるという利益はもちろん、地域の支え合いの基礎ができる、介護に對

しての評価ができるなど、まさに一石二鳥どころではなく四鳥も五鳥にもなる取り組みであるとのことでした。

介護予防については、介護保険法の一文を示され「いつまでも機能の維持向上が可能なのではなく、**尊厳を保つための介護予防とリハビリテーションが重要である**」とのことでした。さらに『尊厳』については『虐待』の反対であり、「虐待(身体的拘束・無視・介護放棄・画一的対応)のないようにケアをすることで、尊厳(自由・安心・家族との交流)のある生活、そして死を迎えることができる。そのための介護予防とリハビリテーションです」とのことでした。尊厳のあるケアでは特に排泄のケアが重要であり、トイレに行きたいときにトイレに連れて行けるように、10 分の座位と移乗の時の瞬発力が必要であること、そのポイントを『越えねばならぬこの一線』と示されていました。

シルバーリハビリ体操についてはシ

ルバーリハビリ体操指導士養成計画について言及され、茨城県全域でこのシルバーリハビリ体操に取り組むことで、住民自らが学び、力をつけ、介護資源となることでこれからの超高齢化社会を乗り切ることができるとお話され、最後の 15 分は参加者の方々と体操の実技を行いました。

大田先生の講演は非常に明快で、わかりやすいのはもちろんのことですが、全体として今ある介護の資源(介護サービスや介護保険法それ自体)を土台としながらそれにプラスアルファ(ヘルパー 3 級取得県民運動、シルバーリハビリ体操)をすることでよりよい社会を迎えられる、そのために日々努力している、という先生の強い意志を感じさせられた講演でした。小雨がちらつくあいにくの天気の中でしたが、講演終了後に参加者(計 212 名)の方々の満足気な表情も非常に印象的でした。

(寺山修史)

### 第 2 回高次脳機能障害講演会

【日時】2008 年 2 月 3 日(日)

午前 9 時～12 時 30 分(予定)

【会場】兵庫医科大学平成記念会館  
(阪神本線武庫川駅)

【受講料】5,000 円(午後に行われます  
ADL 評価法 FIM 講習会と合わせてご出席の方は、昼食含め合計 10,000 円)

※ CRASEED 正会員は 20% 引き、賛助会員の施設職員は 10% 引き

【申込方法・他】下記ご参照下さい。

\*

### ADL 評価法 FIM 講習会

【日時】2008 年 2 月 3 日(日)

午後 1 時 30 分～5 時 30 分(予定)

【会場】兵庫医科大学平成記念会館  
(阪神本線武庫川駅)

【申込方法】1 人 1 枚、往復葉書もしくはメール(office@craseed.org)にて、ご希望コース、お名前、御所属、御職種、連絡先住所、日中連絡が可能な電話番号

号をご記入のうえ下記にお送り下さい。

①高次脳機能障害講演会のみ、② ADL 評価法 FIM 講習会のみ、③高次脳機能障害講演会及び ADL 評価法 FIM 講習会

【参加定員】600 名

【受講料】5,000 円(午前中に行われます  
高次脳機能障害講演会と合わせてご出席の方は、昼食含め合計 10,000 円)

※ CRASEED 正会員は 20% 引き、賛助会員の施設職員は 10% 引き

【申込開始】2007 年 12 月 1 日

【申込締切】定員になり次第締め切ります。

【主催】兵庫医科大学リハ医学教室

【共催】CRASEED(代表:道免和久)

【事務局】兵庫医科大学リハ医学教室

ADL 評価法 FIM 講習会事務局

(木村、三上、金子)

〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町 1-1

TEL : 0798-45-6881(直通)

FAX : 0798-45-6948

E-mail : office@craseed.org

### 目次

- ㊦ 1... 第 2 回 CRASEED フォーラム報告
- ㊦ 2-3... CRASEED 2006 年度事業報告、2007 年度事業計画
- ㊦ 3... 病院紹介：西宮協立脳外科病院
- ㊦ 4... 書籍紹介、リハ職種紹介：リハビリテーション看護師

予測のはなし  
—未来を読むテクニク—

大村 平 著  
日科技連合  
ISBN 9784817122223 (4817122226)  
1993 年発行  
262 頁、1,550 円 (本体価格)



説書はみあたらない。そこで紹介したいのが、14 年も前に出版された本書である (1993 年 第 1 刷、2005 年 第 6 刷)。

本書のテーマ、「予測」はリハビリ医療でとりわけ重要な技量である。

患者の全人的な生活の再設計に、どの程度のことならできるのか、見通しをつけることが必要である。本書はその冒頭、産業や経済のどんな分野でも、いちばん手っ取り早い予測方法は過去を知り、未来に延長することであることを指摘する。その例に「ビールの売上」を用い、さまざまな予測方法の具体例を、視覚的直感に訴える図を多用して教えてくれる。読み進むにつれ、いろんな予測方法があることと、その取舍選択を自然に理解することができる。「こんなのも科学なんだ、いつも仕事で考えていることと同じじゃないか！」と膝をたたかれる読者も多いと思う。事実、評者がこれまでにやってきたリハビリ予後予測のヒントはほとんど本書である。

本書には数式がたくさん登場するが、それらは読み飛ばしても十分に楽しめる。実際、評者はそれらをほとん

ど理解できていない。それでもなお、興味を引く具体例、段階的な構成で読者をどんどん引き込んでいく。平易な具体例よりいろんな予測方法を示し、その中から直感と乖離しない手法を選択する過程とその限界を教えてくれる。この様子は、さまざまな要素が絡まるリハビリ医療の判断や予測が、科学として検証可能なこと、それにはどのような手法を用いればよいかの枠組みを教えてくれる。もちろん、本書は医学書ではないため、具体的な評価法などは医療現場のものに置き換える必要はある。

著者の大村平氏の経歴は、このような技術書としては異質である。なんと、航空幕僚長、航空自衛隊における制服組のトップだったのである。氏の著作では、「多変量解析のはなし—複雑さから本質を探る—」もお勧めしたい一冊である (1985 年 第 1 刷)。これも身近な例を用いて、様々な多変量解析統計の枠組みとその限界を教えてくれる。20 年以上前に書かれたものであるが、多変量解析が統計ソフトで簡単に行なえる今こそ、本書の意義は大きい。氏の著作は、柔軟で実用的な科学的思考法を教えてくれる。現場の実感と乖離する統計が多く示される医療福祉行政に対し、氏に一石投じていただけないかとさえ思ってしまう。

(評者：小山哲男)

リハビリは個性の医学であり、科学の対象となりにくい。確かに、患者背景や治療の統制がしにくいため、古典的な統計を用いた研究には不向きである。その反面、リハビリ医師の診療は「あてずっぽ」ではない。同じような症状、背景の患者へのリハビリ処方、環境調整はほぼ同じになる。単純に説明はできないが、リハビリ医師はそれぞれ一定の「法則」で診療しているからである。

近年の統計技術の発達は目覚ましい。安価で処理速度の速いパソコン、扱いやすい統計ソフトの登場で、単純な二群の比較や相関係数を越えた複雑な統計が可能となっている。とりわけ社会科学の領域では新しい統計手法が様々な応用されている。単純には説明できないが「あてずっぽ」ではないリハビリ医療に、これらを生かさない手はない。しかし医学書の領域で平易な解

リハビリテーション  
関連職種紹介

6

リハビリテーション看護師

リハビリテーション病院で働く看護師を、とくにリハビリテーション看護師といいます。皆さんが「ナースのお仕事」として想像できるもの、例えば体温や血圧の測定、内服の介助、採血や点滴、傷の処置などは、リハビリテーション看護師も当たり前に行います。ではリハビリテーション看護師の特色とは、どんなものなのでしょう

一つ目には、患者さんの日常生活動作の援助です。脳卒中や骨折後などのリハビリテーションで入院されている患者さんは、麻痺などにより、自分の体を自由に動かせない方がほとんどです。そのため、食事、排泄、更衣などの日常生活動作に多くの介助を要します。私たちは、そのような患者さんの日常生活動作を援助します。しかし重

要なことは、患者さんができないことのすべてをお手伝いするわけではないことです。何故できないのかを系統的に評価し、色々な工夫をして、時間を要しても自分でできることが増えるように、見守りながら援助します。リハビリテーション看護師は 24 時間、日常生活動作の視点からも患者さんを見ています。

二つ目には、患者さんとご家族の生活環境の調整です。このために、主治医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーと様々な職種と連携し、退院後の患者さんの自立に向けた援助の方法、自宅での介護方法、介護を軽減するための工夫を考えていきます。ご家族と密にコミュニケーションをとりながら、これを指導、実践していきます。患者さんやご家族と顔を合わす機会が多いリハビリテーション看護師は、これに大きく貢献します。

三つ目には、患者さんやご家族の心理面でのサポートです。脳卒中や骨折後などにより突然に体が不自由になること、患者さんにとってこれは受け入れがたいことであり、とても辛いことです。またご家族は、これからの生活に大きな不安をかかえられます。そのような状態の患者さんやご家族にとって、常に相談しやすい存在でいられるよう、日々心がけながら仕事に取り組んでいます。「看護師さん、ちょっとお聞きしたいことが…」、多くの場面で患者さんやご家族から、最初に話かけていただけるのがリハビリテーション看護師です。

このようにリハビリテーション看護師の仕事は、いろんな側面で患者さんやご家族のもっとも身近である点に特色があります。患者さんやご家族が笑顔で退院していただくこと、それは私たちにとって一番の喜びです。

(坂上 佳奈)